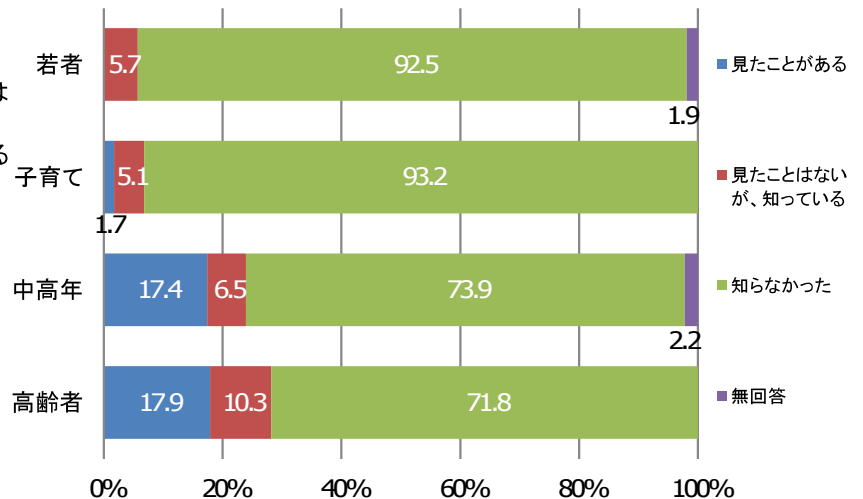
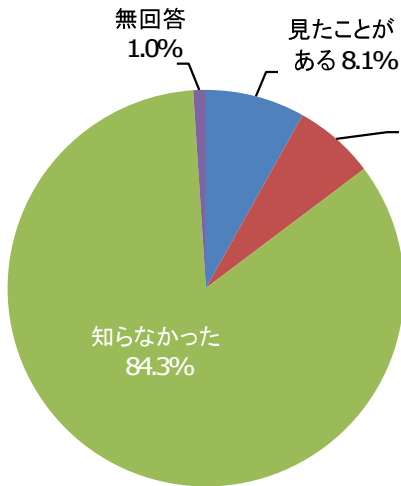


## <浜松市の広報番組・公式SNSについて>

### ■問1 市の広報番組「浜松なるほど！アカデミー※」の認知度 (N=197)

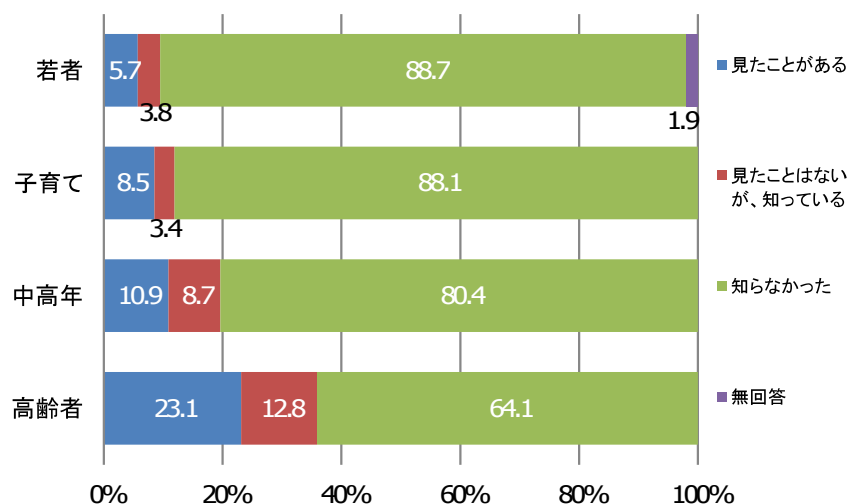
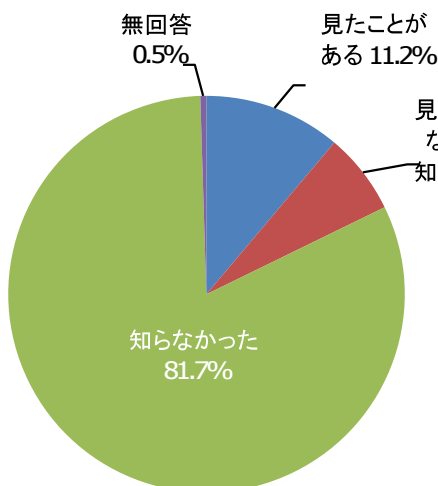
※「浜松なるほど！アカデミー」: 浜松ケーブルテレビで毎日放送し、市ホームページ内「はままつ動画チャンネル」でも視聴できます。



- 市の広報番組「浜松なるほど！アカデミー」の認知度については、『知っている』（「見たことがある」と「見たことはないが、知っている」の合計）が約1割となっています。
- 世代別にみると、世代が高くなるにつれて『知っている』の回答割合が高くなっています。

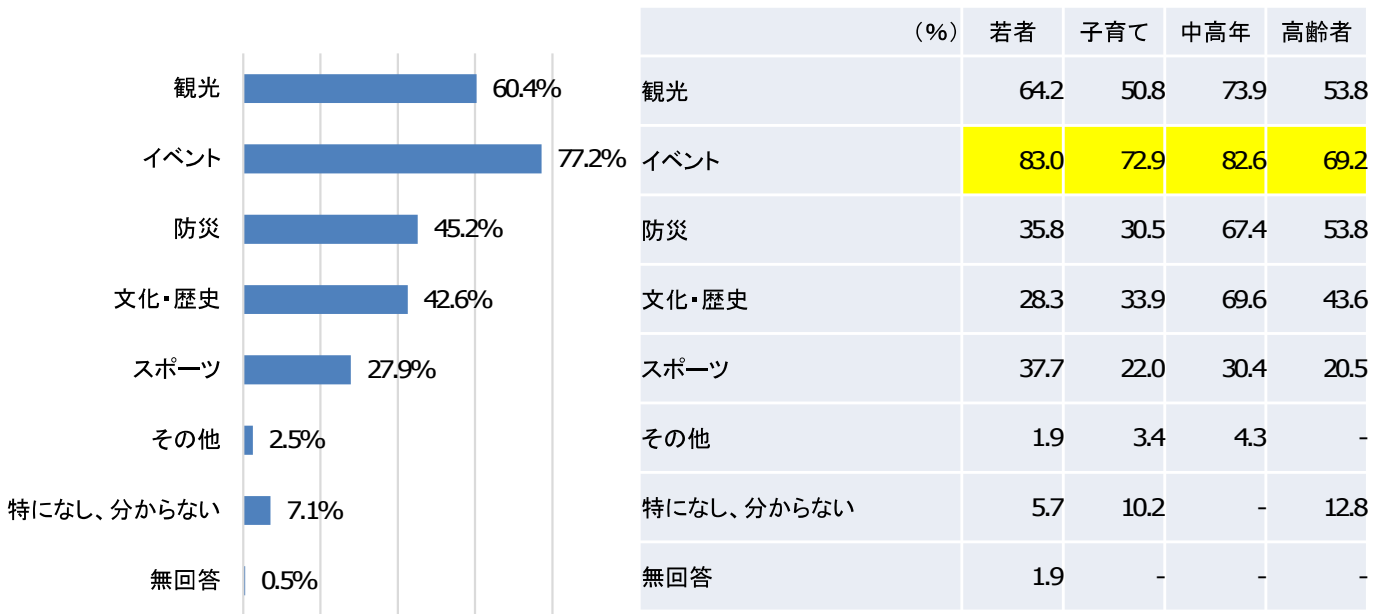
### ■問2 市の広報番組「トキメキ浜松※」の認知度 (N=197)

※「トキメキ浜松」: 静岡第一テレビで毎月第1金曜日に放送し、市ホームページ内「はままつ動画チャンネル」でも視聴できます。



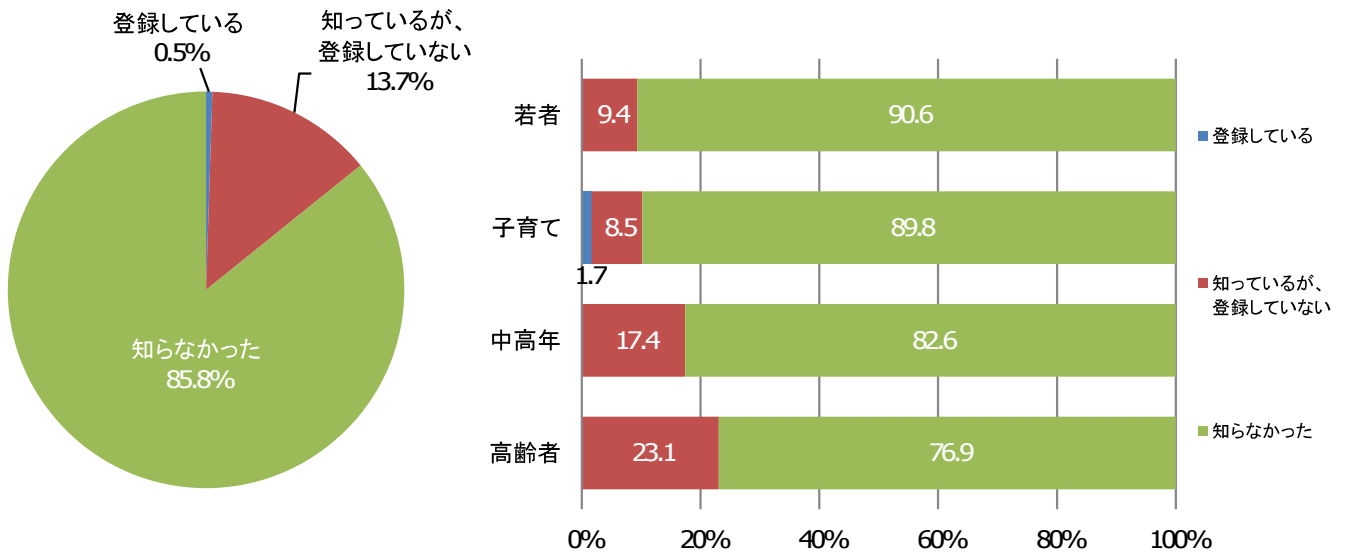
- 市の広報番組「トキメキ浜松」の認知度については、『知っている』（「見たことがある」と「見たことはないが、知っている」の合計）が約2割となっています。
- 世代別にみると、世代が高くなるにつれて『知っている』の回答割合が高くなっています。

■ 問3 広報番組で取り上げてほしいテーマ (N=197 複数回答)



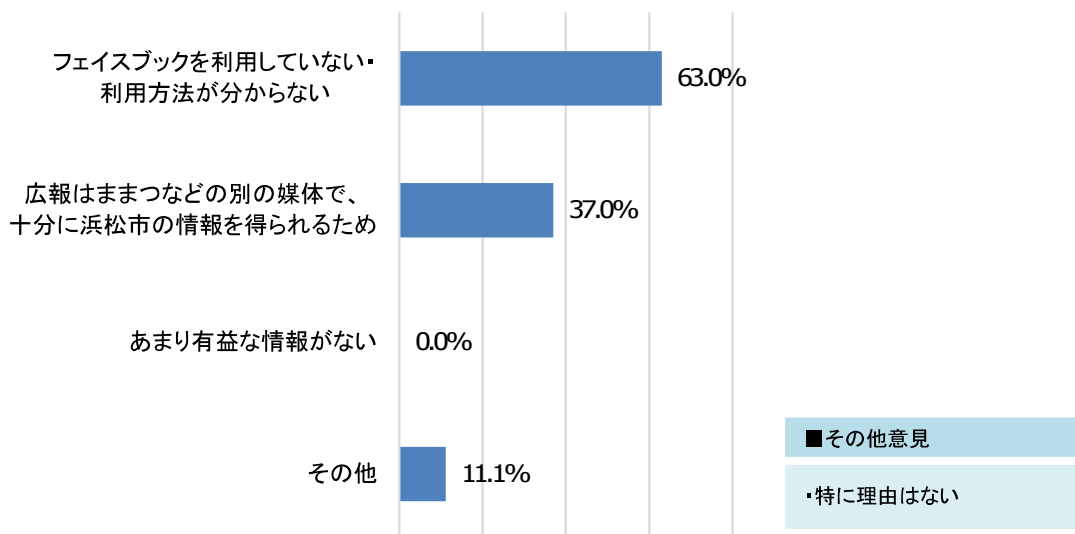
- その他意見
    - ・季節の農水産物
    - ・市民サークル
    - ・生活情報
- 広報番組で取り上げてほしいテーマについては、「イベント」が約8割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「イベント」が最も多い回答となっています。

■ 問4 市公式Facebook「いいら！」の認知度 (N=197)



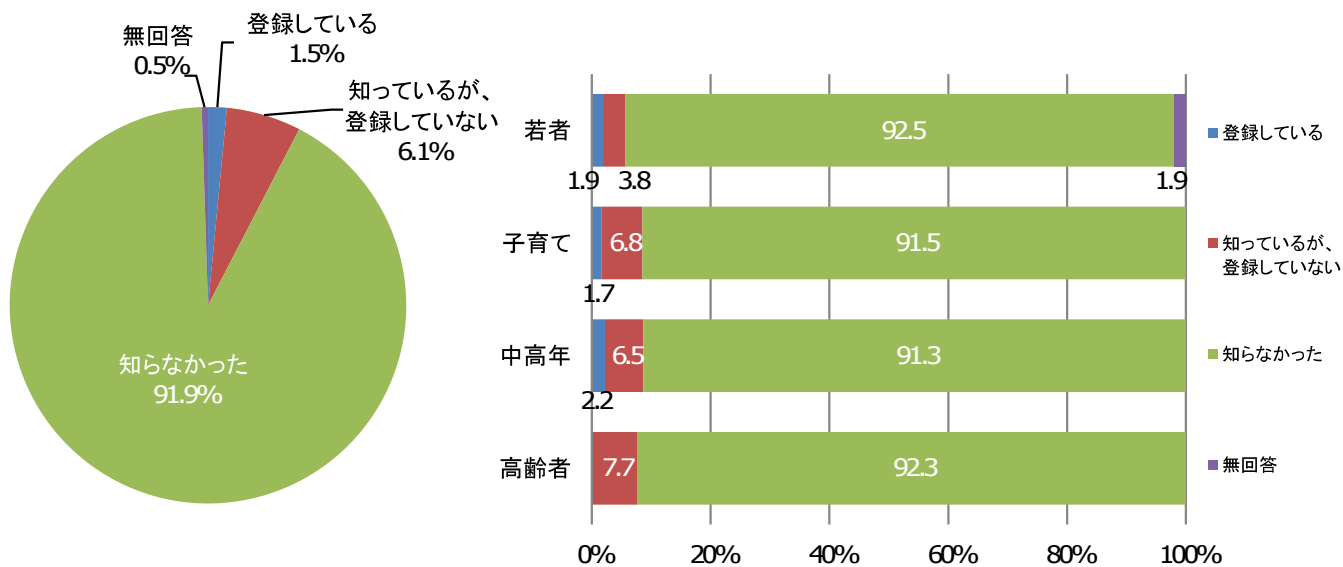
- 市公式Facebook「いいら！」の認知度については、『知っている』(「登録している」と「知っているが、登録していない」の合計)が約1割となっています。
- 世代別にみると、世代が高くなるにつれて『知っている』の回答割合が高くなっています。

■問5 市公式Facebook「いいら！」を登録していない理由 (N=27 複数回答)  
 (問4で「2 知っているが、登録していない」と回答した方)



■ 市公式Facebook「いいら！」を登録していない理由については、「フェイスブックを利用していない・利用方法が分からない」が約6割と最も多い回答となっています。

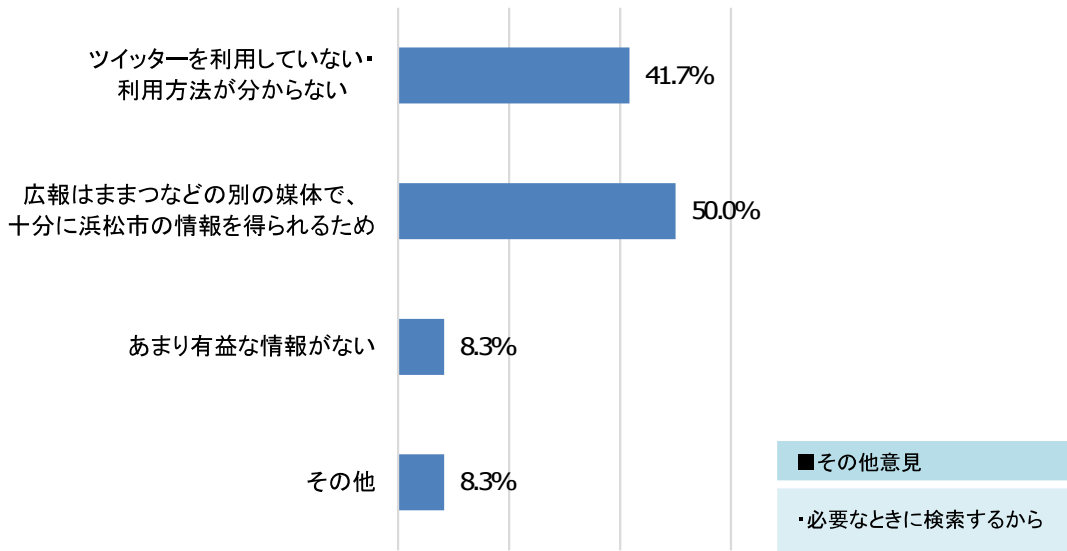
■問6 市公式Twitter「てんこちょ浜松」の認知度 (N=197)



■ 市公式Twitter「てんこちょ浜松」の認知度については、『知っている』（「登録している」と「知っているが、登録していない」の合計）が約1割となっています。

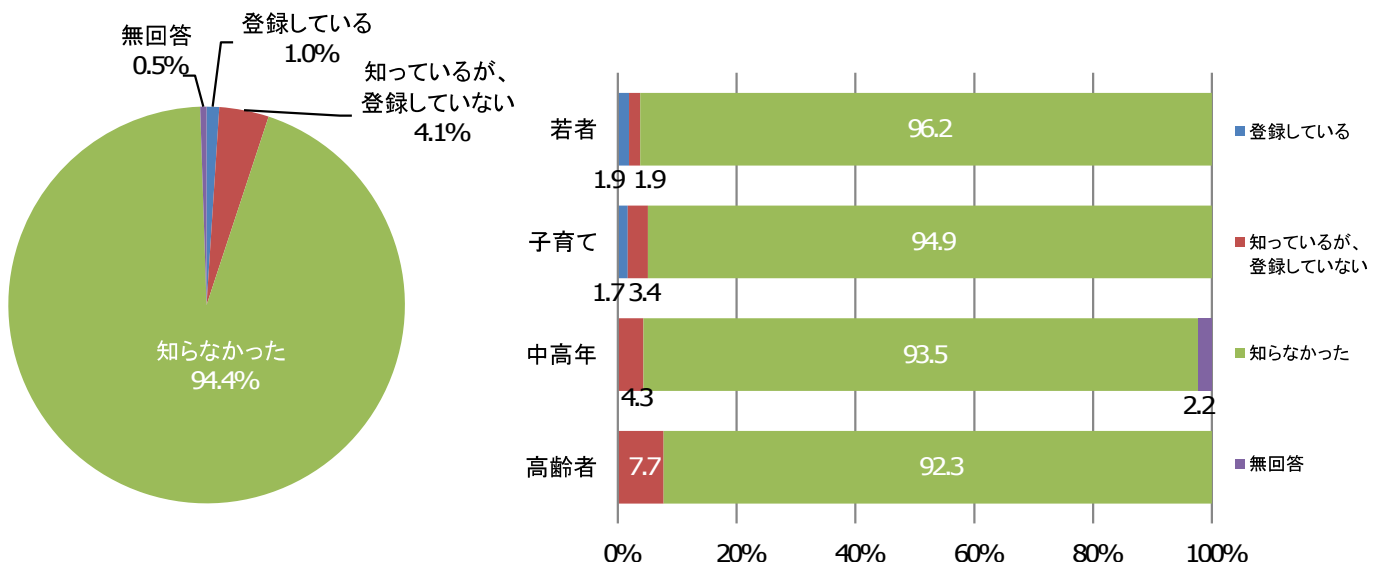
■ 世代別にみても、全ての世代で『知っている』が約1割となっています。

■ 問7 市公式Twitter「てんちよ浜松」を登録していない理由 (N=12 複数回答)  
 (問6で「2 知っているが、登録していない」と回答した方)



■ 市公式Twitter「てんちよ浜松」を登録していない理由については、「広報はままつなどの別の媒体で、十分に浜松市の情報を得られるため」が5割と最も多い回答となっています。

■ 問8 市公式LINE「しゃんべえ情報局」の認知度 (N=197)

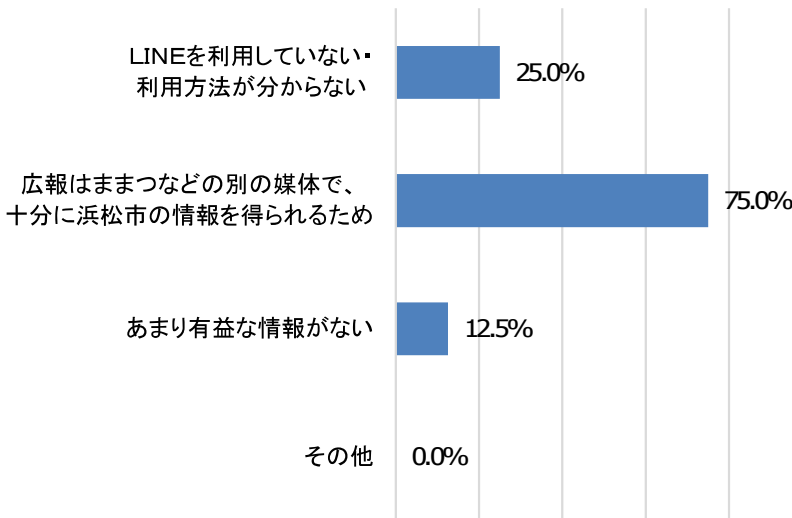


■ 市公式LINE「しゃんべえ情報局」の認知度については、『知っている』(「登録している」と「知っているが、登録していない」の合計)が約1割となっています。

■ 世代別にみると、『知っている』の回答割合は子育て・高齢者では約1割、若者・中高年では1割未満となっています。

■ 問9 市公式LINE「しゃんべえ情報局」を登録していない理由  
(問8で「2 知っているが、登録していない」と回答した方)

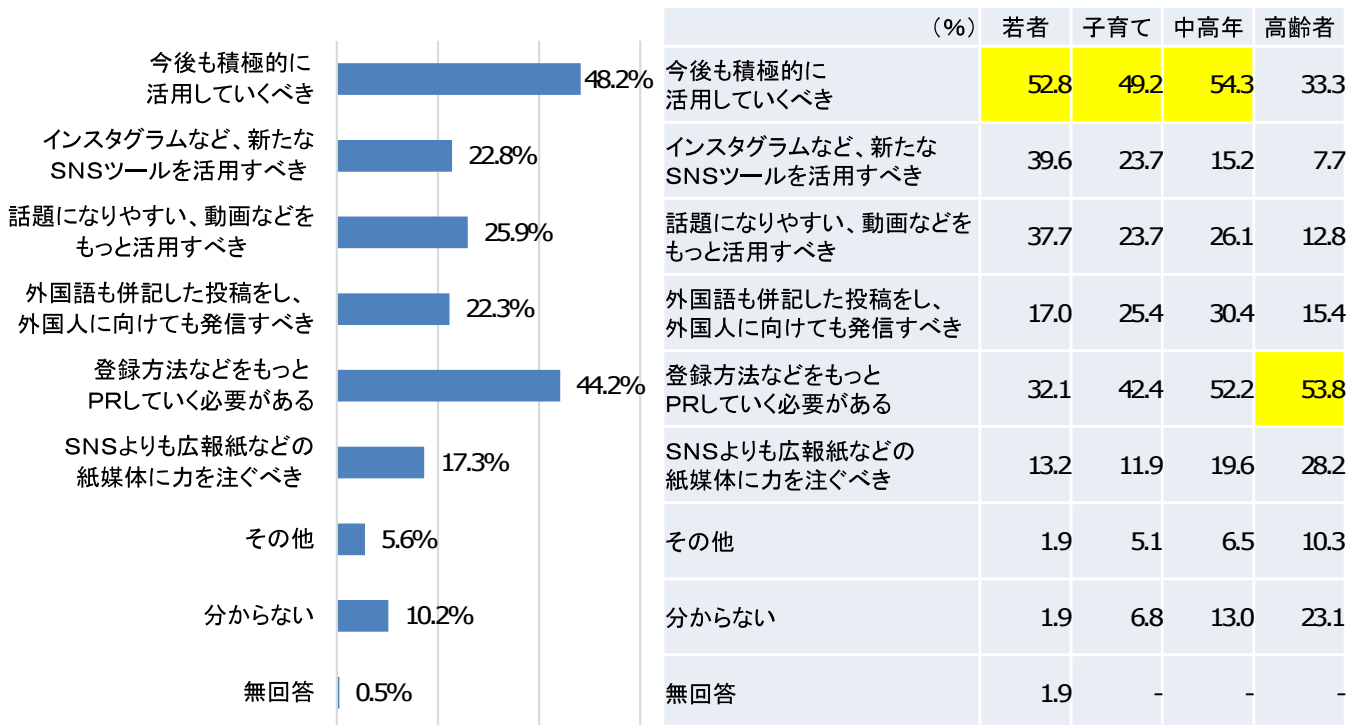
(N=8 複数回答)



■ 市公式LINE「しゃんべえ情報局」を登録していない理由については、「広報はままつなどの別の媒体で、十分に浜松市の情報を得られるため」が約8割と最も多い回答となっています。

■ 問10 市公式SNSの今後の運用

(N=197 複数回答)



■ その他意見

- ・市公式SNS自体のPRをする
- ・パソコンなどを利用しない人への配慮
- ・市の魅力発信は民間に任せた方がいい

■ 市公式SNSの今後の運用については、「今後も積極的に活用していくべき」が約5割と最も多い回答となっており、次いで「登録方法などをもっとPRしていく必要がある」が約4割となっています。

■ 世代別にみると、若者・子育て・中高年では「今後も積極的に活用していくべき」が、高齢者では「登録方法などをもっとPRしていく必要がある」が最も多い回答となっています。